

# Explore the future

株式会社堀場製作所

2004年3月期決算説明会  
代表取締役社長 堀場 厚

2004年5月21日

**HORIBA** GROUP

(C) HORIBA GROUP

## 説明内容

\*決算サマリー

\*業績予想

\*セグメント別詳細説明

\*経営上の取組事項

# 2004年3月期 連結決算概要

P/L

売上高、営業・経常・当期利益過去最高額を計上  
収益性改善（営業利益率 7.0% 8.1%）  
税負担率の改善（69% 53%）、当期利益2.6倍  
エンジン計測システム好調、半導体システム後半急回復

B/S

総資産の圧縮（1,005億円 926億円）  
有利子負債削減（332億円 214億円）  
効率経営の推進（ROE 2% 5%）

C/F

営業キャッシュフロー57億円計上  
社債償還（90億円）による現預金減少  
キャッシュフロー重視経営の継続

# 2004年3月期連結業績

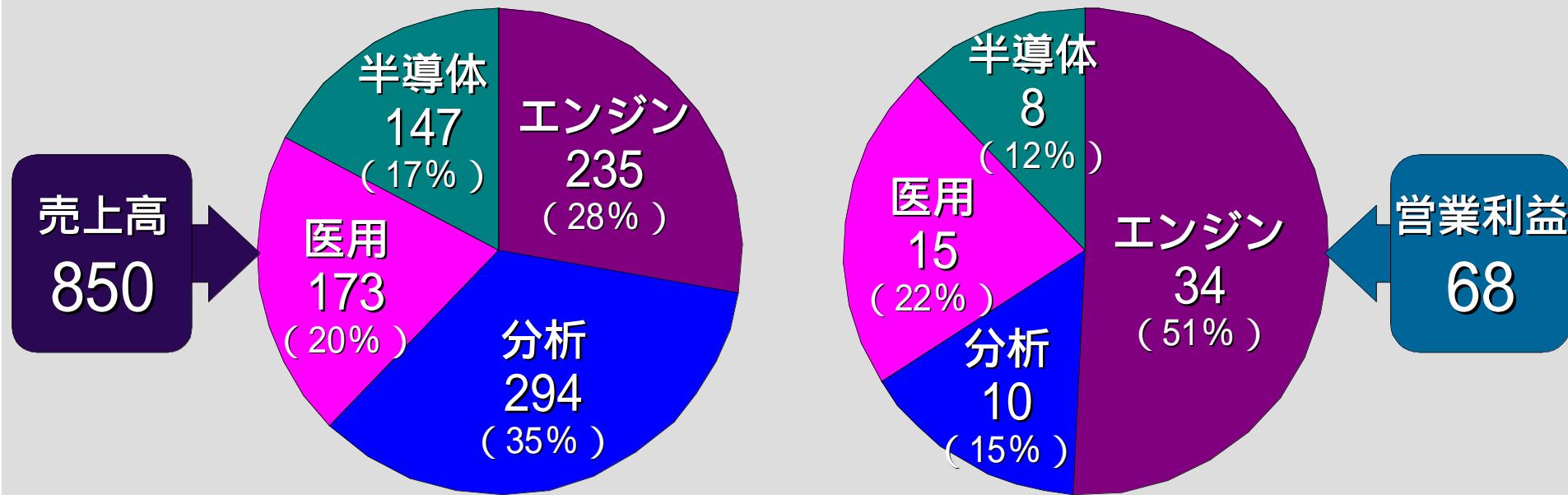
(金額: 億円)

	2003年3月期	2004年3月期	
	実績	実績	増減
	売上高	850	+65 (+8.4%)
営業利益	54	68	+14 (+25.1%)
営業利益率	7.0 %	8.1 %	+1.1 P
経常利益	37	55	+18 (+48.6%)
当期利益	7	20	+13 (+164.0%)
ROE	2.0 %	5.0 %	+3.0 P

# セグメント別業績概要

( 金額 : 億円 )

## セグメント別 金額・構成比



対前年比	エンジン	売上高 11.6%増	営業利益 1017%増
	分析	売上高 88.8%	営業利益 3330%増
	医用	売上高 88.55%	営業利益 .8%増
	半導体	売上高 22.66%	営業利益 404.8%増

## 説明内容

- \*決算サマリー
- \*業績予想
- \*セグメント別詳細説明
- \*経営上の取組事項

# 2005年3月期 連結業績通期計画（金額：億円）

	2004年3月期	2005年3月期	
	実績	予想	増減
売上高	850	900	+50 (+5.8%)
営業利益	68	72	+4 (+5.1%)
営業利益率	8.1 %	8.0 %	0.1 P
経常利益	55	60	+5 (+7.2%)
当期利益	20	26	+6 (+25.4%)
ROE	5.0 %	5.7 %	+ 0.7 P

2004年想定為替レート

(2003年度実績)

円高の影響

1円につきドル3,200万円、ユーロ2,700万円 営業減益

USS\$\$=110055円

US\$ = 116円

E UERU=R1=2182円

EUR = 131円

## 2005年3月期セグメント別業績予想（金額：億円）

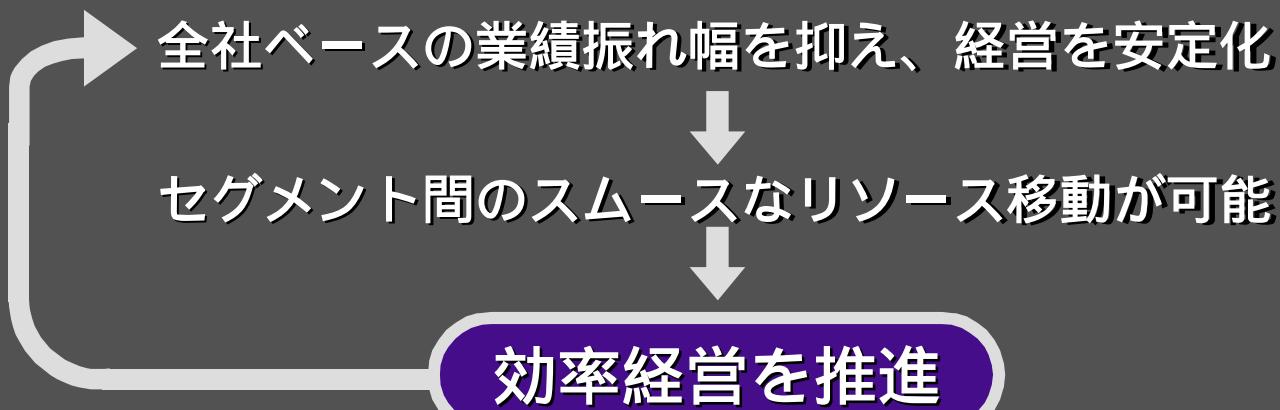
	売上高	前期比	営業利益	前期比
エンジン	236	+0.1%	32	8.2%
分析	289	1.8%	8	21.7%
医用	186	+7.5%	12	20.4%
半導体	189	+8.0%	20	+139.5%
合計	900	+5.8%	72	+5.1%

## 説明内容

- \*決算サマリー
- \*業績予想
- \*セグメント別詳細説明**
- \*経営上の取組事項

# 全社事業戦略

## 4つのセグメントをバランスよく成長させる

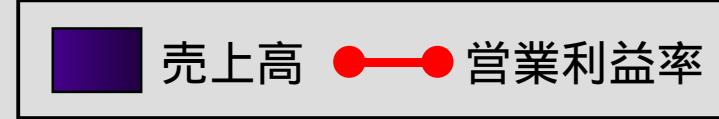
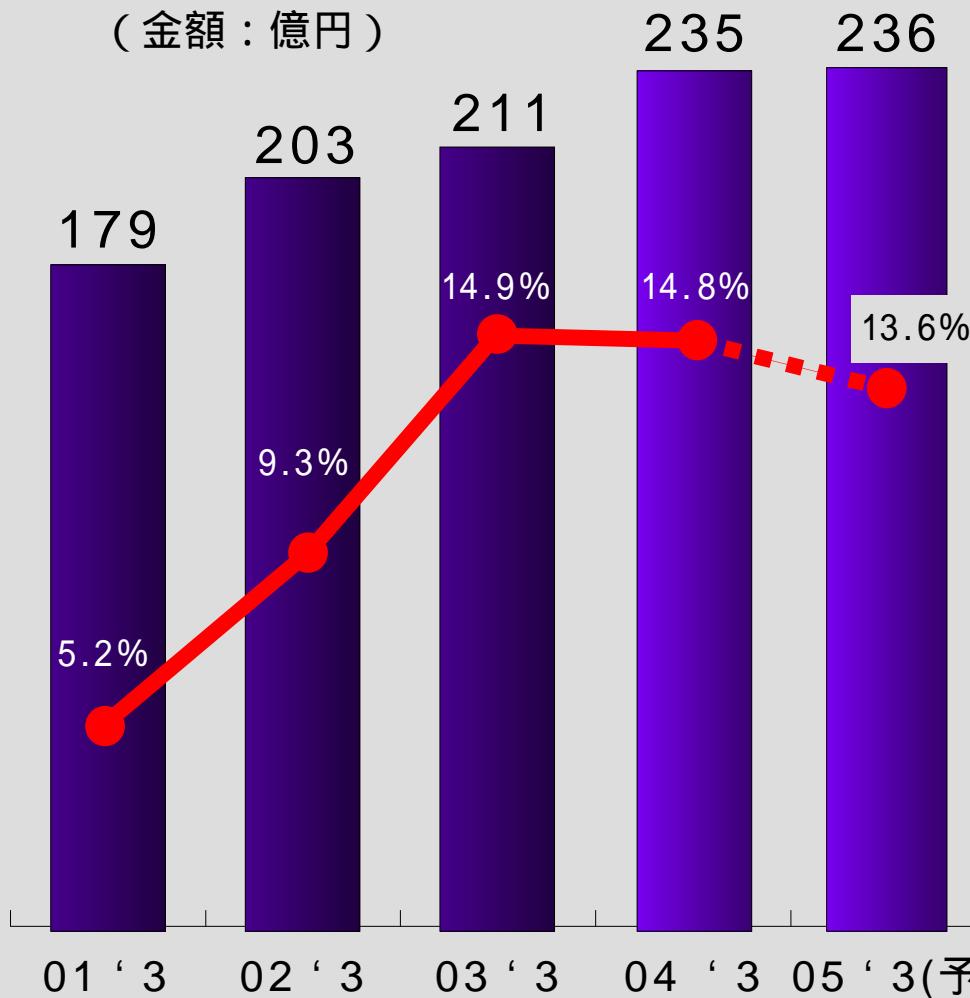


## トータルソリューション提供により収益性を高める

単なる分析・計測にとどまらず、システム全体の制御を含む、より付加価値の高いサービスを提供

# 連結セグメント別売上高・営業利益率推移

## エンジン



### 2004年3月期

世界レベルの排ガス規制強化  
新車開発投資を背景に  
自動車メーカー向け売上好調

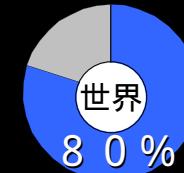
### 2005年3月期

国内向け需要高水準持続  
アジア・欧州向け伸長  
円高予想により減益

# エンジン

排ガス計測の枠を超えて、より良いエンジン開発のために

主力製品



エンジン排ガス測定装置

排ガス規制分野で世界のデファクトスタンダードであり続ける

自動車排ガス規制強化（日本：2005年、欧州：2005年、米国：2007年実施）

オートバイ規制（中国：2004年実施）**市場規模 数億円**

ノンロード規制強化（日本：2004年秋船舶排ガス法制化予定）**市場規模 30億円**

自動車メーカーが求める分析ニーズを確実に取り込む

直接販売によるヒット率の高い製品開発  
排ガス以外の分析ニーズ掘り起こし

燃料電池分野  
エンジン開発コンサルティング

新分野（燃料電池）への積極投資

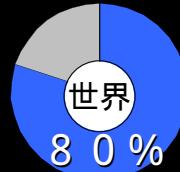
燃料電池評価システムの市場投入  
本社内に燃料電池評価用ラボ建設

（右写真）



# エンジン

主力  
製品



エンジン排ガス測定装置

## 市場カテゴリ

### 現状市場規模

IT化

データ解析

オートメーション  
(実験自動化)

計測

OEMビジネス  
(センサー)

中期成長性

### パワートレイン開発

新技術

50億円

エンジン

400億円

新車

150億円

### 排ガス規制

新車

150億円

中古車

30億円

ノンロード

30億円

受託計測  
コンサルティング

50億円

エンジン開発用  
統合ソフト  
[SRH社(JV)]

排ガス計測

燃料電池  
水素ガス  
計測

車載型排ガス  
計測システム

リカルド - ホリバ  
協業

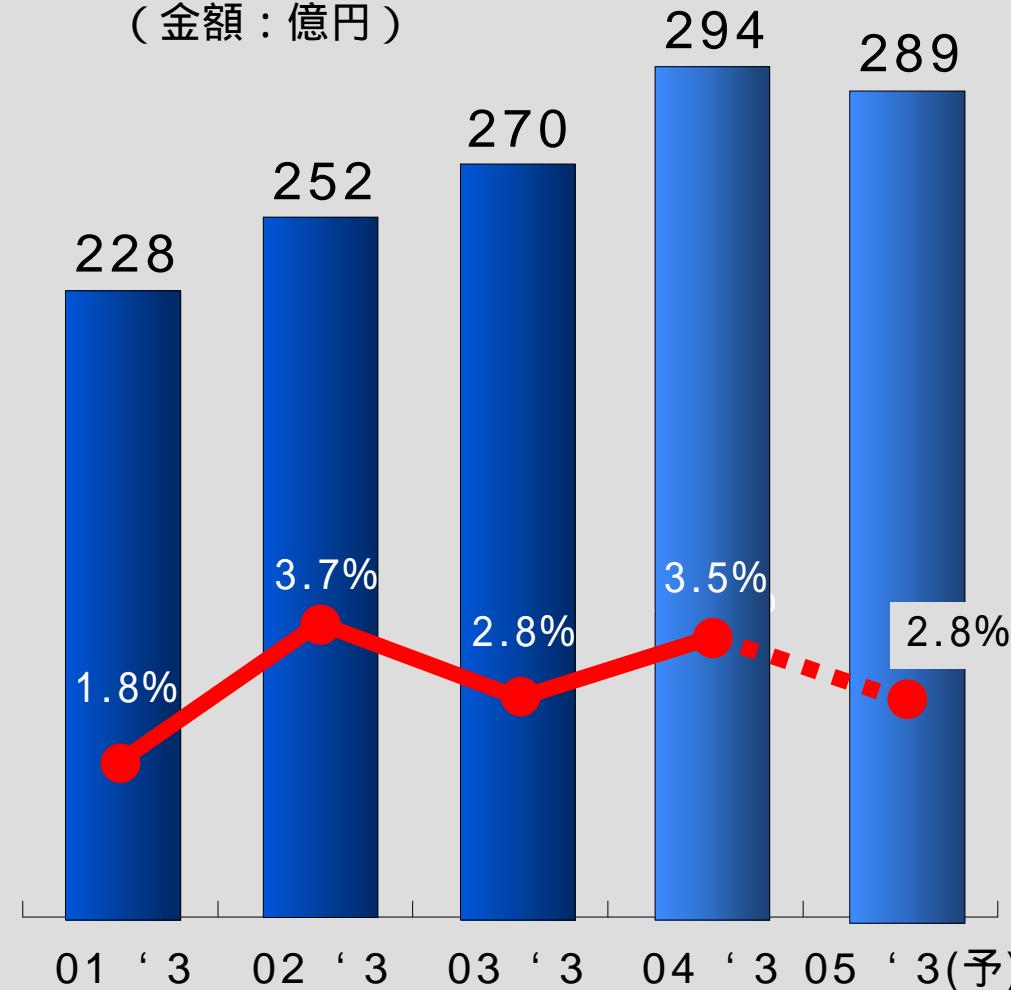
日米欧に  
自社ラボ運営

(市場規模は堀場製作所推計)

# 連結セグメント別売上高・営業利益率推移

## 分析

( 金額 : 億円 )



■ 売上高 ●—● 営業利益率

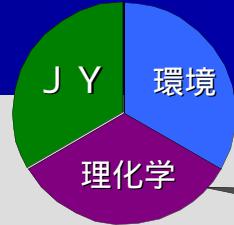
2004年3月期

国内第5次水質総量規制向け  
排水モニタリング装置好調  
競争激化により利益圧迫

2005年3月期

水質総量規制関連需要一巡  
有害物質検出用X線分析装置  
ナノテク用分析装置伸長

# 分析



## 理化学・環境・工業計測のスペシャリスト

分析セグメント売上 294 億円 (2003年度)

### 理化学 (売上 86 億円) 規制市場への対応

WEEE-ROHS指令(グリーン調達に関する欧州規制)  
ELV指令(使用済自動車リサイクル法)

### 環境 (売上 105 億円) 成熟市場に対してコストダウン新製品で対応

新製品投入により、煙道排ガス測定事業のシェアアップによる利益確保

### ジョバンイボン (売上 103 億円) ナノテクノロジー市場向け拡大

国内販売拡大 (前期 19 億円 今期 27 億円)  
カーボン・ナノチューブ構造解析・投薬効果の細胞レベル解析 etc.

主力製品

粒度分布測定装置

主力製品

分光器用グレーティング

主力製品

水質汚濁分析装置

# 連結セグメント別売上高・営業利益率推移

## 医用

( 金額 : 億円 )



■ 売上高 ● 営業利益率

2004年3月期

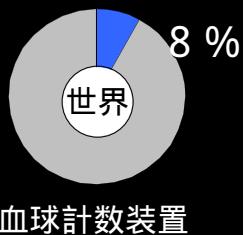
中小型血球計数装置向け  
試薬販売堅調

2005年3月期

大型血球計測装置・生化学用  
診断装置売上拡大  
開発投資・販売費増で減益

# 医用

主力製品



## 血球計測市場から生化学・免疫市場への展開

### 血球計測装置大型市場、生化学市場への新製品積極投入

今期は販売促進費・研究開発費増加により減益見込み  
来期以降は第2の成長ステージへ

受注は  
好調な滑り出し

### 国内市場

血糖値計測市場へ本格参入（三共より事業買収）・独自製品投入

### 中長期ターゲット（2008年 - A BX創立25周年時）

収益性の高い検査試薬の比率45% 60%にアップ  
市場規模の大きい生化学分野の比率15% 25%にアップ

営業利益率  
15%ターゲット

### バイオ分野への展開

短期

農薬・環境ホルモン検査市場へ製品投入

中長期

バイオセンサ技術を応用し、超小型高機能分析デバイス開発

# 医用

主力  
製品  
世界  
8 %

血球計数装置

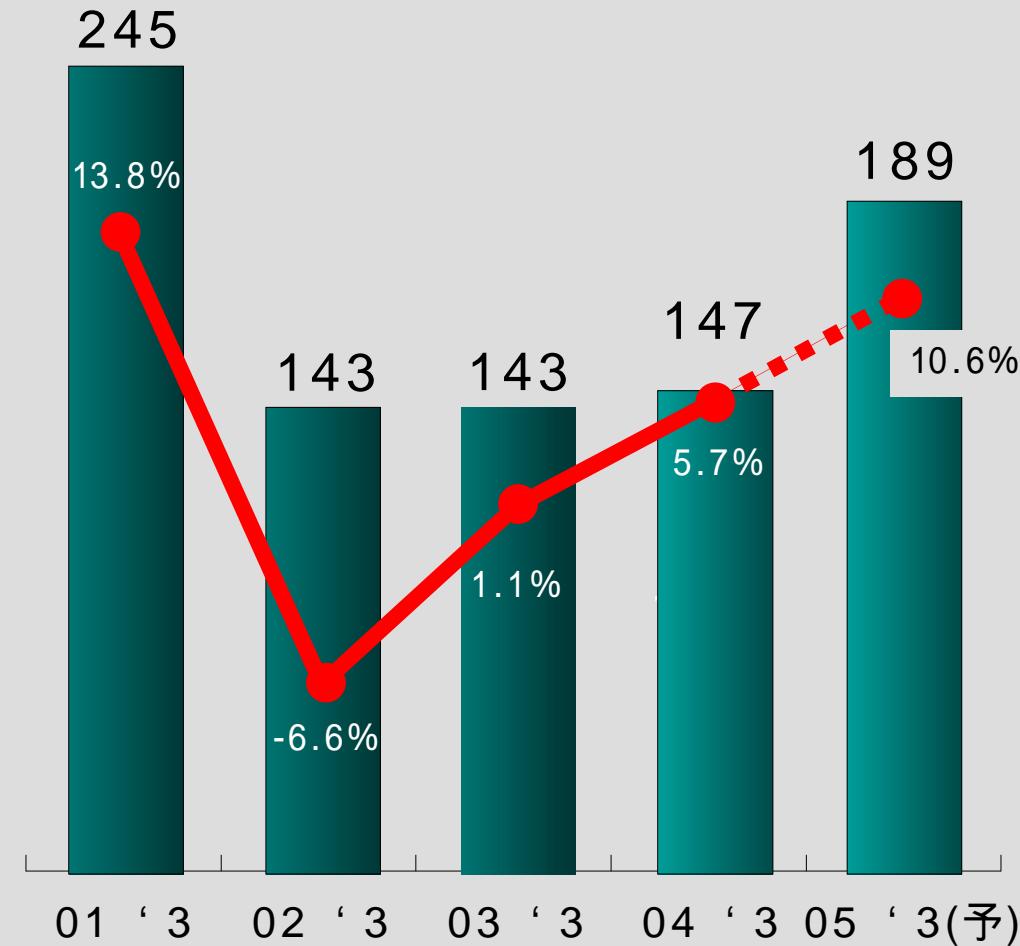
## 血球計測市場から生化学・免疫市場への展開

検査カテゴリ		生化学	血液		免疫
市場規模		1兆円	2千億円	1千億円	1兆円
病院	大病院 検査センター		血球検査システム (自社開発)		
	中小病院	生化学分析装置 (ロシュ社: MIURA 自社開発製品)		凝固試薬 (BIO PEP社)	
開業医		血糖値測定 (三共より買収)	中・小型 血球計数装置		ぜん息薬測定 C R P 計測 (炎症検査)
病棟・手術場 (P O C T)		小型生化学			HORIBA

# 連結セグメント別売上高・営業利益率推移

## 半導体

(金額: 億円)



■ 売上高 ●—● 営業利益率

2004年3月期

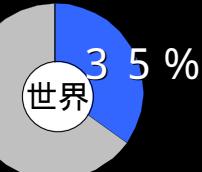
半導体市場年度後半急回復  
半導体製造装置向け  
ガス流量制御装置好調

2005年3月期

半導体市場高水準持続  
年度後半は減速を想定

# 半導体

主力製品



半導体プロセスチャンバー周辺のトータルソリューション提供

マスフローコントローラ

確実な需要の取り込みと短納期生産対応

**生産** 人員シフト、精密部品の調達促進

**販売** 日本・アジア デバイスメーカーへの標準採用働きかけ  
北米 製造装置メーカー要求スペックと納期への対応

2003年後半 日本・アジア市場急回復

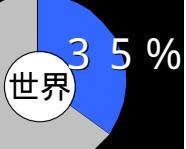
2004年 北米市場本格回復

半導体製造装置周辺のトータルな分析・制御ソリューションを提供

シリコンサイクルの恩恵を確実に享受するビジネスモデルの強化  
(次世代マスフローコントローラの開発推進)  
新規需要開拓に向けたオンリーワン製品群の市場投入  
(残留ガス分析計、真空計)

# 半導体

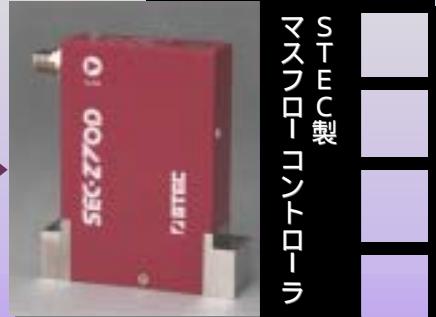
主力製品



半導体プロセスチャンバー周辺のトータルソリューション提供

マスフローコントローラ

ガス



フガシティ社

圧力センサ技術取得  
新型MFC開発

フェラン社製品

世界独占販売権取得

プロセスチャンバー

液体



排気制御バルブ

ターボポンプ

ドライポンプ

Explore the future

**HORIBA**

## 説明内容

- \*決算サマリー
- \*業績予想
- \*セグメント別詳細説明
- \*経営上の取組事項

# 経営上の重点取組事項 ~ 企業価値向上を目指して

## 企業責任、コンプライアンス重視

### リスク情報の社外への適切な開示

- 社内のシステム作りとオープンコミュニケーション

### 企業の誠実さ・透明性調査

(インテグレックス社)

調査回答企業 88777社中33388位

## 投資効率の改善

### B/S、C/F重視の経営推進

- B/S健全化(リスク資産の償却推進、有利子負債削減)

### 不採算事業のテコ入れ

- ターンアラウンドプロジェクト継続推進

## 経営システムの変革

### 「One Company経営」の推進

# 「One Company経営」の推進

## HORIBA GROUP is One Company

HORIBAグループは、統一されたブランドの下、  
ビジョン・戦略を共有し、One Companyとして、  
グループの企業価値・利益最大化を追求する

具体的な取り組み

グループバーチャル組織の設置

「HORIBA」ブランドへの統一

会計系統一に向けた準備作業推進

# 経営システムの変革

A B X ・ ジョバンイボン社  
買収前 ( '96.3 )

406億円  
68%  
32%

A B X ・ ジョバンイボン社  
買収後 ( '99.3 )

675億円  
15%  
12%  
39%  
34%

現在 ( '04.3 )

17%  
20%  
35%  
28%

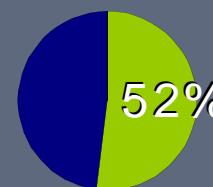
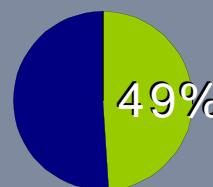
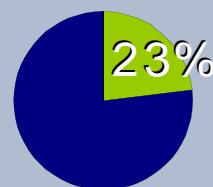
売上高  
半導体  
医用  
分析  
エンジン

6.6%  
2.0%

4.3%  
1.5%

8.1%  
5.0%

営業利益率  
R O E



従業員比率  
国内  
海外

76人

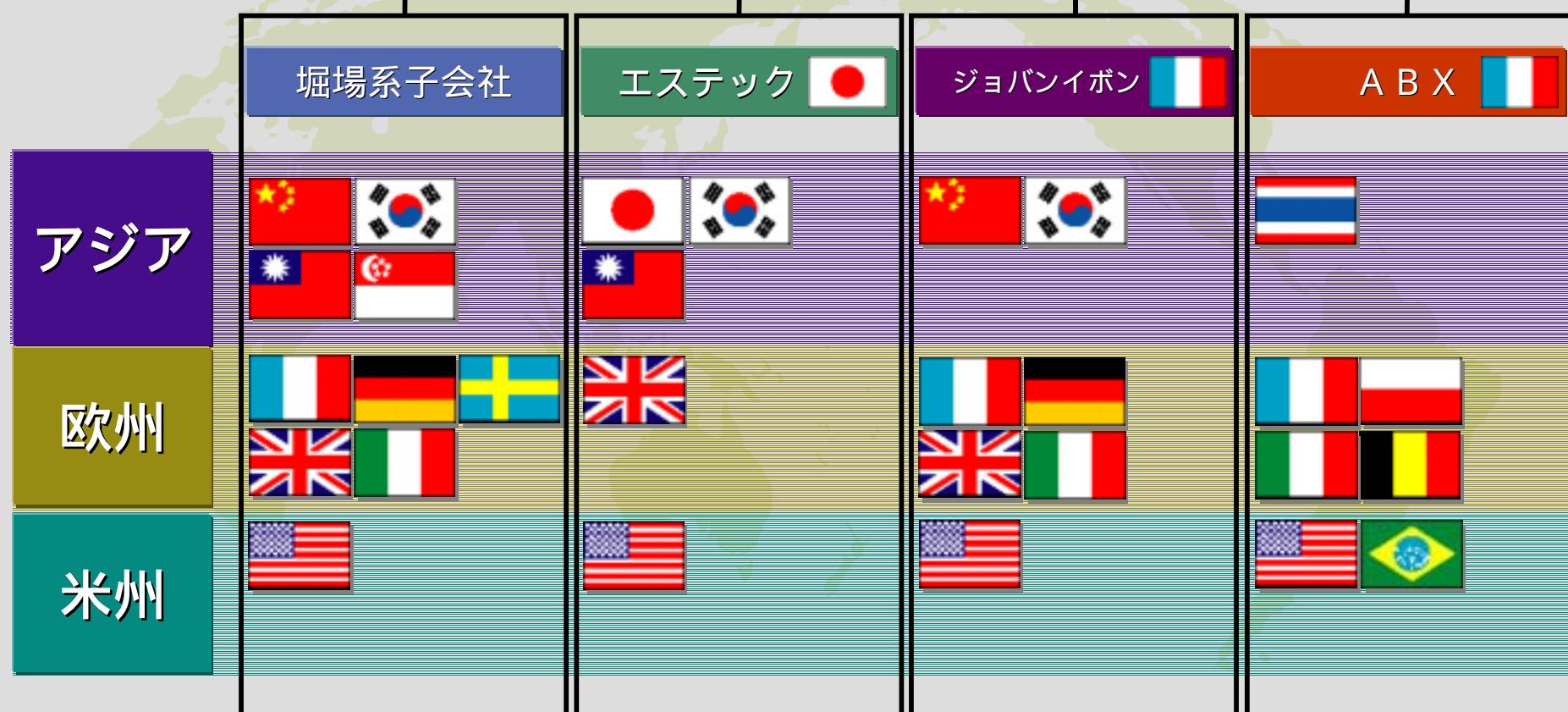
84人

116人

海外勤務  
経験者数  
( 堀場製作所 )

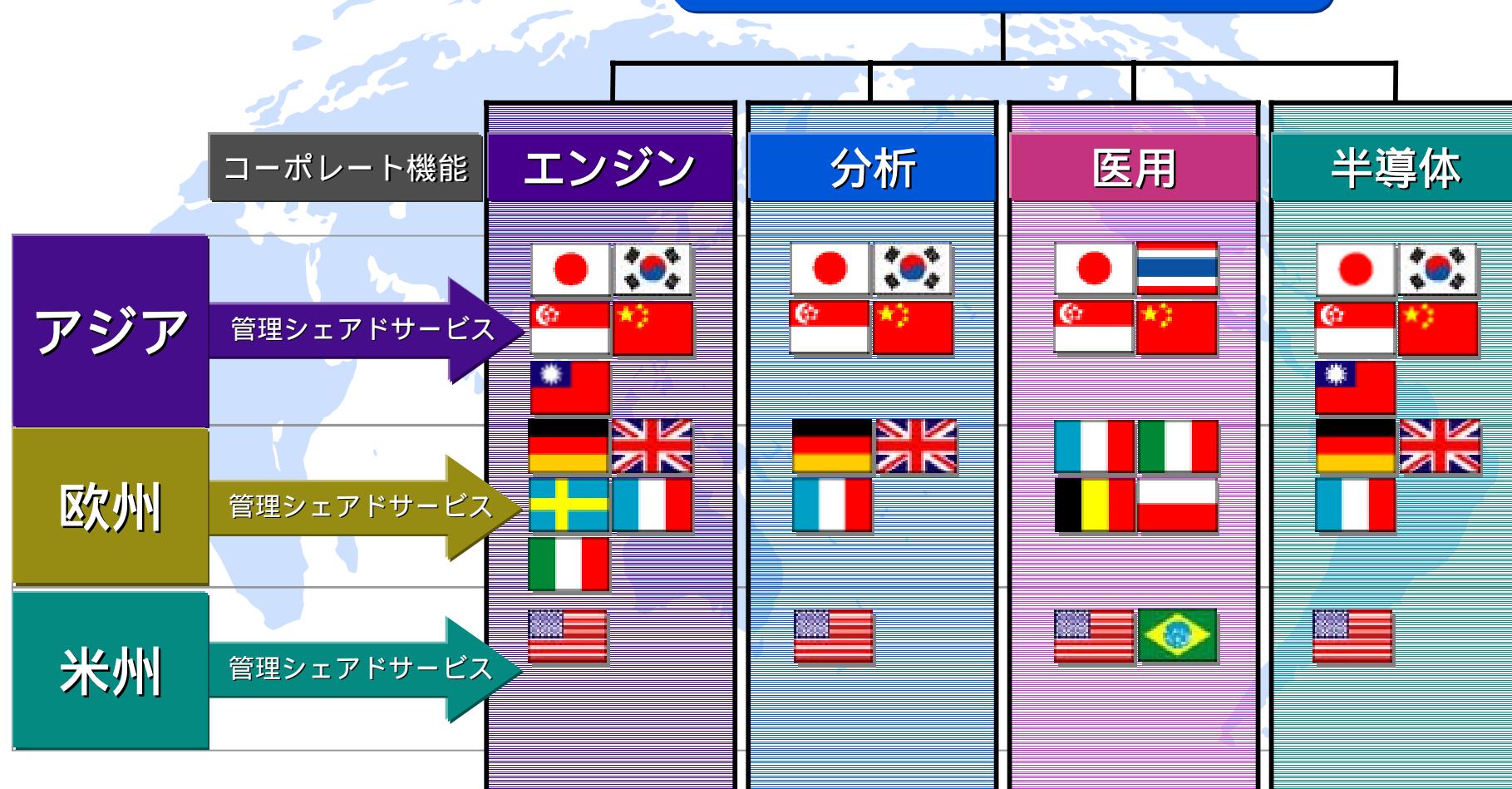
# 従来の事業運営体制

**HORIBA**  
堀場製作所



# 今後の事業運営体制

エグゼクティブ コミッティ  
(最高経営決定機関)



# 今後の事業運営体制

エグゼクティブ コミッティ  
(最高経営決定機関)

## 「One Company経営」のメリット

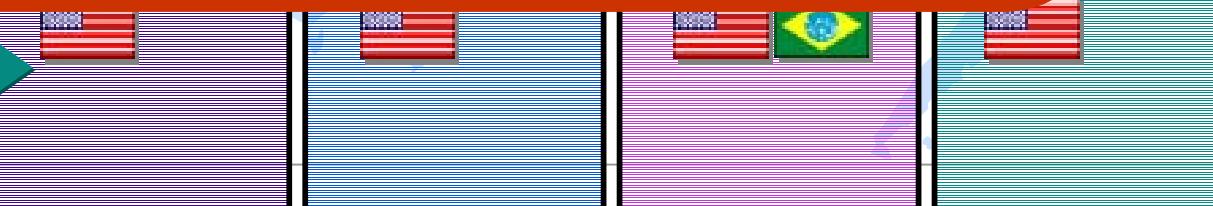
グローバル市場に対する戦略的かつ効率的な経営  
少数精銳のコーポレート機能の強化  
財務・人事・法務・知財・購買・IT etc・・・  
将来的な会社統合・再編成  
ロスのないグローバルレベルのタックスプランニング

アシ

欧

米州

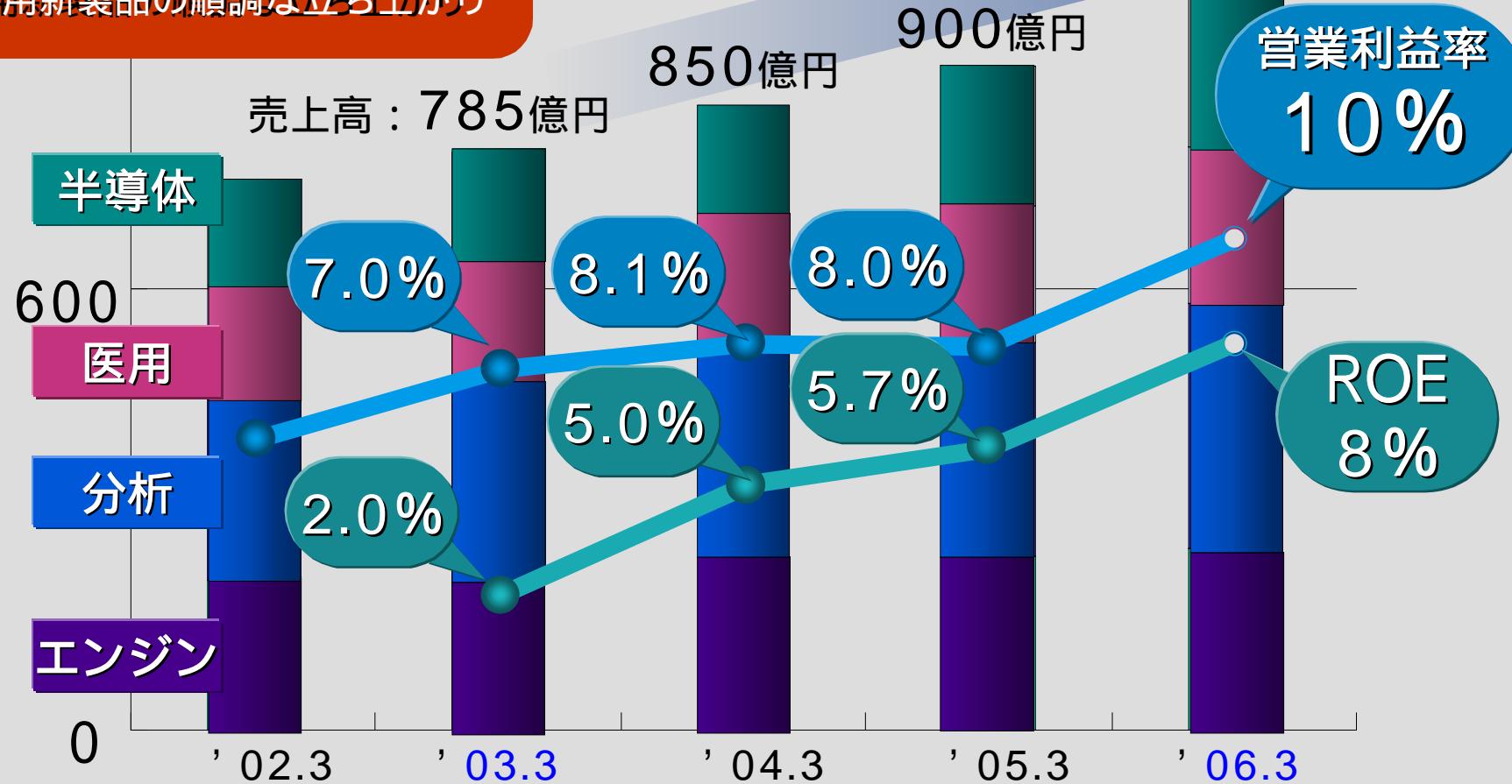
管理シェアドサービス



# 連結売上高・営業利益率・ROE計画

## 計画達成のための条件

半導体市場の好調維持  
医用新製品の順調な立ち上がり





END

## 免責事項

本プレゼンテーション資料には、株式会社堀場製作所の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。

これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。

また経済動向、他社との競争状況、為替レートなどの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知下さい。